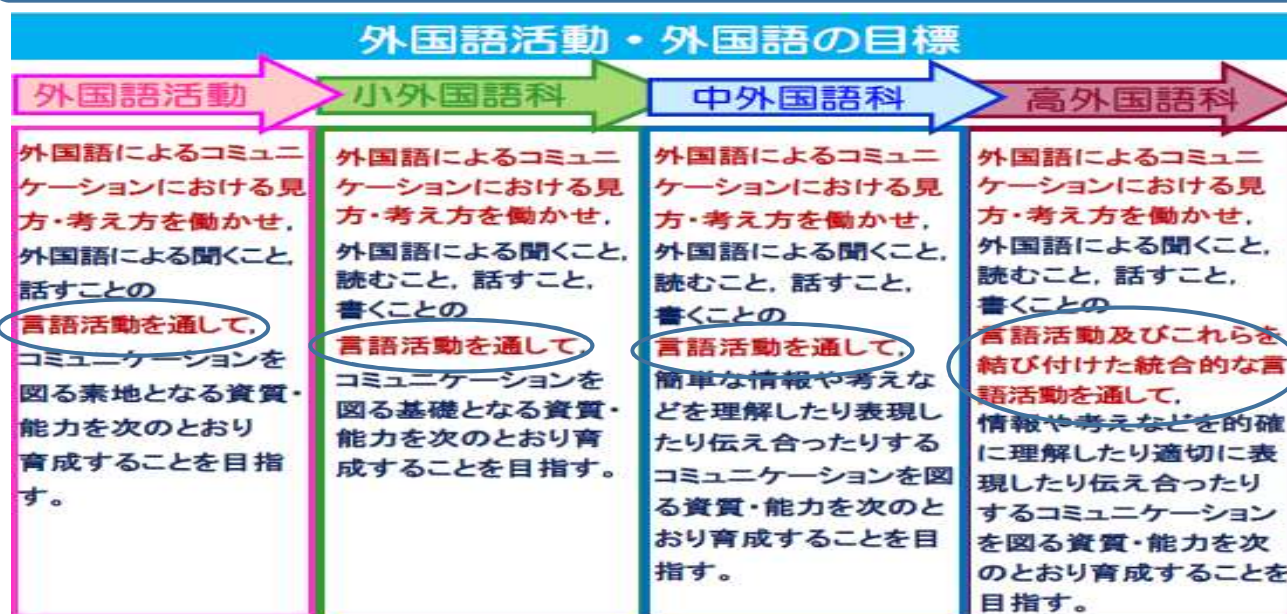


英語教育に携わっている皆さん、こんにちは。三重県教育委員会事務局は、今年度も、三重県英語通信 Mie English News を定期的に発行します。

今年度は、中学校で新学習指導要領が全面実施となります。Mie English News では、英語教育の動向や日々の授業づくりに役立つ情報を提供し、子どもや先生の力になりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

1

外国語活動、外国語科の目標



新年度の始めですので、改めて、小学校、中学校、高等学校学習指導要領の外国語活動・外国語科の目標を確認します。上の表にあるように、小学校から高等学校までの目標に、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ」と「言語活動を通して」が共通して記載されています。つまり、この2点は、とても大切だということです。

「言語活動を通して」について考えてみましょう。「言語活動って何？」と聞かれたら、皆さんはどのように説明しますか？

2017年に文部科学省が作成した「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」には、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」とされています。子どもが、英語でコミュニケーションをするのは楽しいと実感できる言語活動とするためには、子どもが本当に伝えたい内容を伝え合うことが必要です。子ども自身が、「何を伝えようか」と考え、そのために今まで学んだ知識や技能を活用しながら、「どんな語彙や表現を使ったらいいか」と考えることで、思考力・判断力・表現力が育っていきます。言語活動を行う目的や場面、状況を明確に常に意識して取り組むよう、指導していきましょう。

中学校では、3年間の移行期間を経て、新学習指導要領が全面实施となりました。新しい教科書での授業もスタートしています。授業を進めるにあたり、4つのポイントについて確認しましょう。

授業は英語で行うことを基本に

「授業を英語で行うことを基本とする」ことの目的は大きく2つあります。

1つ目は、生徒が英語に触れる機会を充実させることです。日常生活で英語に触れる機会が限られているので、授業でインプットの量を増やすことが重要です。

2つ目は、授業を実際のコミュニケーションの場面にするためです。先生の使用する英語は、生徒にとって効果的なインプットとなります。「やって見せる」指導を心がけていきましょう。

話すことが「やり取り」と「発表」に

話すことの「やり取り」と「発表」では、関心のある出来事について、「即興で」話することができるようになることが求められています。即興で話す力は、一度の授業や言語活動で身につくものではありません。年間を通して継続的に取り組みましょう。

また、日常的な話題や社会的な話題については、お互いの意見を交換して意見をまとめたり、自分の考えを整理して構成を考えたりするなど、多様な活動を取り入れていきましょう。

コミュニケーションを行う目的、場面、状況

「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」の設定は、内容を思考、判断させるために行うものです。

言語は、人とかかわりの中で用いられるものです。どのような言葉を使えば理解してもらえるのか、相手は何を知りたいと思っているのか。読み手や聞き手に配慮し、どう伝えればいいのかということを、生徒自身が考え、表現するために、目的、場面、状況の設定について、今後も工夫していきましょう。

言語活動を通して、資質・能力を育成

言語活動は、生徒に「思考力、判断力、表現力」を育成するために取り組ませるものなので、生徒が思考、判断、表現をしている活動である必要があります。生徒が自分で考えることがポイントとなりますので、活動前に、先生が与えすぎたり、教えすぎたりすることは控えましょう。

1単位時間の指導のイメージは、目的、場面、状況などを理解させ、「①言語活動を行う②内容面や言語面から指導する③再び言語活動を行う」となります。

文部科学省 MEXTchannel (www.youtube.com/user/mextchannel) には、「中学校の外国語教育はこう変わる！」のコンテンツがあります。今回ポイントとした4点について、実際の授業を撮影した動画をもとに解説されています。参考にしてみてくださいはいかがでしょうか。